

學者が忘れてゐる星座

Forgotten Constellations.

山 本 一 清 Issei Yamamoto.

“學者が全く忘れてゐる星座がある”と言へば、人は多く“じやうだんでせう？ マサカ、そんなことが！”と笑ふかも知れない。しかし、今日の職業的な“學者”なるものは、皆“馬車馬”と言はうか、“器械”と言はうか、とにかく、一旦“東”を向いてゐると言へば、“西”も“北”も“南”もマルデ知らない非常識漢なのだから、(或は、笑ふことも、泣くことも知らぬ“人間味の無い”人種なのだから)専門以外のことにかけては、全く聞拔けなので、こうした非常識も止むを得ない。とにかく、いつかも書いた通り、ベガス座のデ星や、駁者座のガ星や、蝎座のガ星などを、學者は皆知らないのである。

星座にしても、さうだ。例へば、“メシエ座”だの、“日時計座”だの、“印刷室座”だのと言つたやうなものを、學者に聞いて御覽なさい。“そんな星座が在るものか？”とか、“知らないよ！”とか返答して、恬として、恥かしいとも思はないのだから。それどころか、つい數年前まで彼等が使つてゐた“帆船座”だとか、今でも流星群の名に残つてゐる“四分儀座”だとか言ふものまで、彼等仲間だけで勝手に“使はない”と決めて了へば、あとは、“知らない”とか“そんなものは無い”とかで済ませるのだから、學者といふものはノンキである。

× × × × ×

とにかく、今の學者が全く忘れてゐる(或は、知らない)星座が、天には可なり澤山ある。試みに、かつて本會で出版した天文年鑑の1932年版の星座一覧表を開けて見給へ、下の如き星座が列記してある。

番號	星 座 の 學 名	邦 譯	大 略 の 位 置	夕暮れ 南中期
22	Cerberus	地獄の番犬	ヘルクレス座102番星附近	七月
33	Custos Messium	善星番人メシエ	カシオペア座47番星附近	一月
40	Felis	猫	空氣ボンブとヒドラ座の間	四月
42	Frederici Honores	フレデリキ大王	蜥蜴座 α 星と β 星附近	十一月
44	Globus Aerostaticus	輕氣球	南魚座4番星附近	十一月
56	Lochium Funis	水程線	アルゴ船の一部	二月
60	Machina Electrica	電氣機械	鯨座56番星附近	十二月
61	Malus	帆船	アルゴ船の一部	三月
64	Mons Maenalus	メナルス山	牧夫座の西部	六月

67	Musca Borealis	北蠅	羊座41番星附近	一月
68	Noctua	梟	ヒドラ座58番星附近	六月
71	Officina Typographica	印刷室	大犬座ガ星附近	三月
77	Phoenicopterus	赤鷄	鶴の別名	十月
83	Psalterium Georgii	ジョージ王の琴	エリダン河第二オミ星附近	一月
85	Quadrans Muralis	壁面四分儀	牧夫、ヘルクレス、龍3星座の間	七月
87	Robur Carolinum	チャルス王の櫓	龍骨座ベ星附近	八月
90	Sceptre	王笏	蠍座ア及ベ星附近	十一月
91	Seeptrium Brandenburgicum	ブランデンブルグ王笏	エリダン河座53番星附近	一月
97	Solarium	時計	レチクル座附近	一月
98	Tarandus vel Rangifer	馴鹿	カシオペアと麒麟との間	一月
100	Taurus Poniatovskii	ポニャトフスキ王の牛	蛇遣ひ座70番星附近	八月
102	Telescopium Herschelii	ハッセルの望遠鏡	双子座ヒ星附近	三月
105	Triangulum Minor	小三角	三角座10番星附近	十二月
107	Turdus Solitarius	孤島の鶉	ヒドラ座の東端	六月

合計24座、なほ此のほか、

Dhalim	駝鳥	エリダン河の北部	一月
Beid	卵	エリダン河第一オミ星附近	一月
Antinoüs	アンチヌイス	鷲座の南部	九月
Quadra Euclides	エウクリドの方形定規	定規座の別名	七月
Norma Nilotica	ナイル河水量計	水瓶座の古名	十月
Regula	分度器	定規座の一部	七月
Capus Medusae	メヅサの首	ペルセウス座ベ星附近	一月
Anser	鶉鳥	狐座の一部	九月

等の星座が昔から知られてゐる。——永い年月、天文に親んで、所謂“星座”に多少飽きた人々も、こうした新しい星座に接觸する時は、一種の清新な心地を以つて、再び天文入門の頃の心地を楽しむことが出来よう。

Cerberus 地獄の番犬

冥府(埴獄)の王プルートに仕へてゐる三首蛇舌の猛犬として、ギリシヤ神話に度々物語られ、遂に豪勇ヘルクレスに殺されたと傳へられる獣であるが、之れが、ヘルクレスの成し遂げた12種の偉業の一つとして、記念されるため、夏の空のヘルクレス座の東部にある93, 95, 96, 102, 109等の星々によつて作られてゐる。之れはヘベリウスが、今から250年前、Firmamentum Sobiescianum といふ著書の中に初めて記したものであると知られてゐるが、フラン

マリオンの研究によれば、大昔のエウドクソスの天球儀に既に現はされてゐると言ふ。スミスのベドフォード天文臺の恒星目録の序文に、

“天國とはおよそ縁の遠いセルベルスにも、

一星座が與へられたり”

との句を記してゐるのは、面白い。

Custos Messium 彗星番人メシエ

この星座は、もと“收穫の番人”として、北天のカシオペア座とセフェウス座とジラフ（麒麟）座と、三つの星座にまたがる邊に、1775年、ラランドが自作の天球儀に書いたものであつた。あたかも、セフェウス王とカシオペア王妃とは、有名な農業國エチオピアの君主であつて、大昔のフェニシヤ人たちは此のあたりの天空に大きい“麥畑”の星座を考へ付いたと傳へられるし、又、隣接するジラフ座は、農場を荒す惡獸であるものだから、此の星座は甚だ興味を以つて迎へられたものであつた。しかるに、フランス革命中の1794年から1798年までの間、天文家メシエが、戦亂の騒ぎをよそにして、パリ市のセイヌ河畔にある天文臺に蟄居し、彗星搜索に浮身をやつし、遂に時の國王ルイ第15世から“彗星番人”といふ名を頂戴したので、誰言ふとなく、一般に此の星座をメシエ記念のものと考えに至つたのである。この星座のあたりは、微光の星々ばかりで、殆んど人々の目に付かないけれど、普通の星座を卒業したやうな人々は此れを暗夜に捜して見るのも面白からう。

Felis 猫

フランスの天文家ラランドは、非常に猫を愛玩してゐたので、多少の茶目氣から、“猫”の星座といふものをヒドラ座と空氣ポンプ座との間に作り上げ、1805年に著した *Bibliographie Astronomique* の中に始めて記入したもので、彼は

“わしも、若い時から、永い間、天の星には苦勞したので、こんどは少しいたづらをしてやらう”

と言つたことがあると、傳へられてゐる。

讀者諸君、星座といふものは、時々、こんな氣持ちで作られたものなのです。

Frederici Honores フレデリキ大王

之れは、1786年に逝去されたプロイセン國王フレデリキ陛下の偉業の記念として、1789年にドイツの天文家ボーデが考案して、ベルリン曆書に發表したもので、位置は、ヘベリウスが百年前に作つた蜥蜴座の北部からアンドロメダ座の右腕の延びてゐるあたりまでであるが、結局、之れは蜥蜴座を抹殺することに成功せず、又、三千年も昔から嚴として存在するアンドロメダ座の一部を奪

ひ取ることも出来ず、今尚、未完成のまゝになつてゐる。ポードの考察では、このあたりの星34個を含むことになつてゐるのだが。

Globus Aerostaticus 輕氣球

之れは1798年にフランスの天文家ラランドが、新器械を讃仰する紀念として考案したもので、山羊座と南魚座とにまたがり、22ケの星を含むものであるが、皆、光が淡くて、殆んど目立たない。

Lochium Funis 水程線

昔から傳はつてゐる“アルゴ船”といふ星座が餘りに大きいものだから、ラカイユは之れを分けて、第18世紀の中頃に“龍骨”、“艫”、“帆”、“檣”、“羅針盤”等に改めたことは一般に知られてゐるが、其の後、ポードは此の一部に水程線といふ新星座を作つたのである。

Machina Eléctrica 電氣器械

之れも、1800年にポードが考案したもので、當時の新發明器械を紀念するためのものである。位置は“鯨”の中央の南寄りに當る位置であるが、

Malus 檣

前記の通り、第18世紀の中頃、フランスの天文家ラカイユが、アルゴ船の星座を分割して作つたもので、つい二十年ほど前までは、星圖にもハッキリ現はれてゐたものである。近年、國際天文同盟の決議により、之れを使はなくなつて、其の位置に“羅針盤”を置くことになつた。しかし、星の配列から言へば、ガ、ア、ベ等の線が明瞭にアルゴ船の檣の形を表はしてゐるから、決して不自然なものではない。それに、今から三四千年も前のギリシヤ神話時代には羅針盤といふ器械は無かつたのだから、やはり“檣”の方が、見る眼には、宜いやうに思ふ。

(つゞく)

會 告

七月1日より從來の振替口座 二連式 が 四連式 として、改正になりましたので、今後は同封の四連式（但し從來の二連と新規印刷の二連の計2枚使用のこと）で、會費其他御拂込み願ひ上げます。

東亞天文協會經理部